

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第163集

近津遺跡群

# 下 宮 原 遺 跡 I・II

周防畑遺跡群

長野県佐久市長土呂近津遺跡群下宮原遺跡I・II  
周防畑遺跡群発掘調査報告書

2009.3

佐 久 市  
佐久市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、佐久市が行う地方特定道路整備事業市道S1-210号線（近津東線）に伴う近津遺跡群下宮原遺跡Ⅰ・Ⅱ、周防畑遺跡群の発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 佐久市（建設部 高速交通課）
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 近津遺跡群下宮原遺跡（NTS） 佐久市長土呂1,0562-2他  
周防畑遺跡群 佐久市長土呂900-2他
5. 調査期間及び面積 調査期間 平成19年8月17日～平成21年3月27日  
発掘調査  
下宮原遺跡Ⅰ・周防畑遺跡群 平成19年8月17日～平成19年9月11日  
下宮原遺跡Ⅱ 平成20年5月13日  
整理作業 平成19年9月21日～平成20年3月19日  
平成20年6月23日～平成21年3月27日  
調査面積 下宮原遺跡Ⅰ 平成19年度 700㎡ 平成20年度 270㎡  
周防畑遺跡群 平成19年度 90㎡  
開発面積 2,400㎡
6. 調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭
7. 本書の編集・執筆は、林が行った。
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

1. 遺構の略記号は、住居址（H）・土坑（D）・ピット（P）である。
2. 挿図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については挿図中にスケールを示す。  
住居址1/80 土坑1/60 土器1/4
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 土層・遺物胎土の色調は、1988年版「新版 標準土色調」に基づいた。
5. 調査区グリッドの、間隔は4×4 mに設定した。

## 目 次

### 例言・凡例・目次

#### 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 立地と経過 ..... 1
2. 調査体制 ..... 1
3. 基本層序 ..... 1
4. 検出遺構と遺物の概要 ..... 1
5. 遺跡の位置と周辺遺跡 ..... 1

#### 第Ⅱ章 遺構と遺物

1. H1号住居址 ..... 3
2. H2号住居址 ..... 5
3. 溝状遺構 ..... 5
4. 土坑 ..... 6
5. まとめ ..... 6

#### 抄 録



第1図 近津遺跡群下宮原遺跡Ⅰ・Ⅱ、周防畑遺跡群位置図 (1:50,000)

# 第I章 発掘調査の経緯

## 1. 立地と経過

近津遺跡群下宮原遺跡は、佐久市長土呂に所在し、小諸市境の市の北東部に位置している。この付近は、浅間第一軽石流の堆積と浸食によって形成された田切地形が発達する。田切は南西方向に放射状に延びている。田切地形の台地上には、原始から中世の遺跡が数多く存在する。台地上の遺跡には、北から古墳・平安時代の集落が調査された本遺跡群、古墳・奈良・平安時代の大規模な集落が検出された芝宮遺跡群・長土呂遺跡群、さらに、南西には縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の遺構が密集した西近津遺跡群がある。

今回、佐久市建設部高速交通課が地方特定道路整備事業市道S1-210号線の道路工事を行うことになり、佐久市教育委員会が試掘調査を行った。結果、近津遺跡群内で遺構が発見されたため保護協議を行い、記録保存目的の発掘調査を行う事となった。周防畑遺跡群内では、遺構は確認されなかった。

## 2. 調査体制

調査主体者 佐久市教育委員会

教 育 長	木内 清		
事 務 局 社会教育部長	柳沢義春 (平成19年度)	内藤孝徳 (平成20年度)	
社会教育部次長	山崎明敏 (平成19年度)	柳沢本樹 (平成20年度)	
文化財課長	森角吉晴	文化財調査係長	三石宗一
文化財調査係	並木節子 林 幸彦	須藤隆司 小林真寿	羽毛田卓也
	神津 格 富沢一明	上原 学 出澤 力	

### 調査体制

調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭

調 査 員	赤羽根充江	浅沼 勝男	安藤 孝司	磯貝 律子	江原 冨子	白田 尚佳
	小幡 弘子	狩野小百合	澤井 知春	清水 澄生	春原 幸子	大工原達江
	上屋 武上	林 まゆみ	日向 昭次	中島ふくじ	中山 清美	比田井久美子
	細菅ミスズ	堀籠 保子	武者 幸彦	柳沢 武	山元有美子	横尾 敏雄
	依田 美穂	依田 三男	渡辺久美子	渡辺 長子		

## 3. 基本層序

第11図の層序模式図に示したように、I層は腐葉土が主でフワフワしている。田切の谷底の1層も同様であるが、層厚はより薄い。II層の黒褐色土は現道下では、見られない。III・IV層が遺構確認面であるが、IV層の浅間第一軽石流堆積面より明確な確認ができた。

## 4. 検出遺構と遺物の概要

近津遺跡群下宮原遺跡I (平成19年度調査)

遺構 竪穴住居址2軒 (平安1、縄文中期?1) 土坑4基、溝状遺構1条、ピット8個

遺物 縄文土器・土師器・須恵器・鉄製品

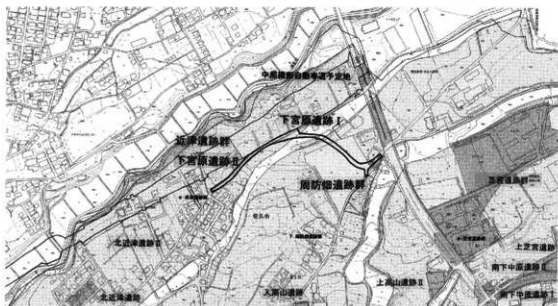
近津遺跡群下宮原遺跡II (平成20年度調査) 溝状遺構1条

周防畑遺跡群 (平成20年度調査) 遺構なし・出土遺物なし

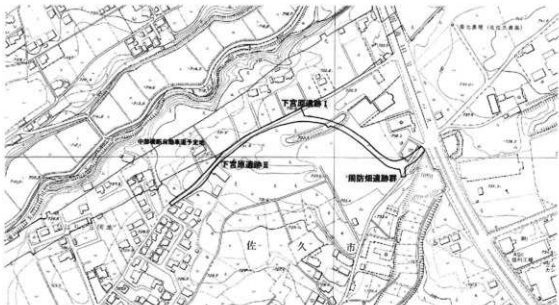
## 5. 遺跡の位置と周辺遺跡

下宮原遺跡I・IIは、湧玉川左岸田切台地上の南端に位置し、標高は732m内外である。同じ近津遺跡群で近津神社東隣の北近津遺跡 (昭和47年調査) では5世紀後半から6世紀の住居址4軒等、さらに、北近津遺跡II (平成19年調査) では3軒の弥生木から古墳時代初頭の住居址等が検出されている。

今回の調査区北側の「中部横断自動車道」用地内では、長野県埋蔵文化財センターにより調査が継続している。現在までに弥生時代末～古墳時代前期・古墳時代中期～後期・平安時代の住居址20軒などが調査されている。平安時代5軒の住居址は、本遺跡のH1号住居址と同様に南東コーナーにカマドが構築されている。本遺跡群南方に弥生後期・古墳～平安時代集落が検出された西近津遺跡群や周防畑遺跡群が、東方に古墳～平安時代集落が検出された聖原遺跡や芝宮遺跡群・中原遺跡群がある。



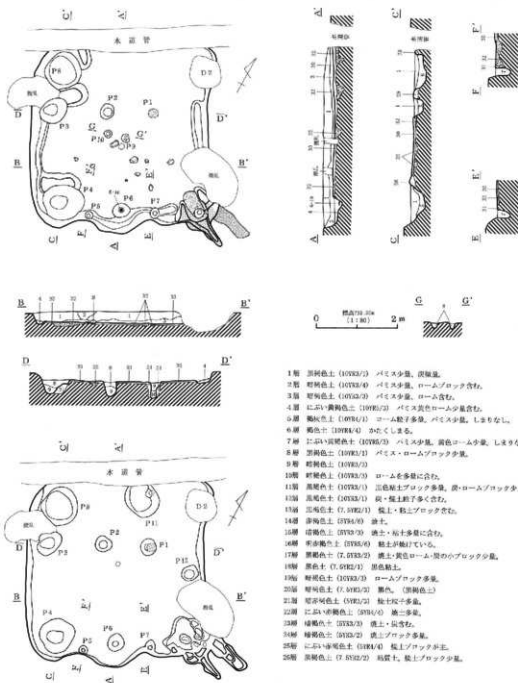
第2図 近津遺跡群下宮原遺跡I・IIと周防畑遺跡位置図(1:15,000)



第3図 近津遺跡群下宮原遺跡I・IIと周防畑遺跡群調査区設定図(1:5,000)

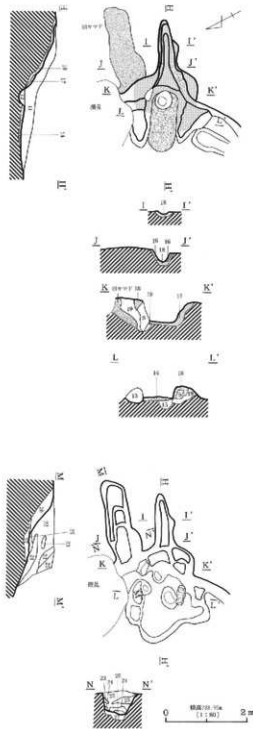
## 第Ⅱ章 遺構と遺物

1. H1号住居址 本址は、け・こ-2・3、こ4Grに位置し、D2号土坑に切られる。北辺を水



- 1層 赤褐色土 (10YR5/7) バミス少量、炭粒混。
- 2層 暗褐色土 (10YR5/0) バミス少量、ロームブロック含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR5/2) バミス少量、ローム含む。
- 4層 に近い黄褐色土 (10YR5/2) バミス黄色ローム少量含む。
- 5層 黄褐色土 (10YR5/4) ローム粒子多量、バミス少量、しまりなし。
- 6層 褐色土 (10YR5/4) かつくしまる。
- 7層 に近い黄褐色土 (10YR5/2) バミス少量、褐色ローム少量、しまりなし。
- 8層 赤褐色土 (10YR5/7) バミス・ロームブロック少量。
- 9層 暗褐色土 (10YR5/2)
- 10層 暗褐色土 (10YR5/2) ロームを多量に含む。
- 11層 黄褐色土 (10YR5/7) 黄色粘土ブロック多量、黄・ロームブロック少量。
- 12層 黄褐色土 (10YR5/7) 炭・粘土粒子多く含む。
- 13層 赤褐色土 (7.5YR5/1) 炭土・粘土ブロック含む。
- 14層 赤褐色土 (10YR5/0) 粘土。
- 15層 暗褐色土 (10YR5/2) 炭土・粘土多量を含む。
- 16層 赤褐色土 (10YR5/0) 粘土が散らけている。
- 17層 赤褐色土 (7.5YR5/2) 炭土・黄色ローム・炭の小ブロック少量。
- 18層 褐色土 (7.5YR5/3) 黒色粘土。
- 19層 暗褐色土 (10YR5/2) ロームブロック多量。
- 20層 暗褐色土 (7.5YR5/2) 黒色。(赤褐色土)
- 21層 暗赤褐色土 (5YR5/2) 粘土粒子多量。
- 22層 に近い黄褐色土 (10YR5/4) 粘土多量。
- 23層 暗褐色土 (10YR5/2) 粘土・炭含む。
- 24層 暗褐色土 (10YR5/2) 粘土ブロック多量。
- 25層 に近い黄褐色土 (10YR5/4) 粘土ブロック少量。
- 26層 赤褐色土 (7.5YR5/2) 粘質土、粘土ブロック少量。

第4図 H1号住居址実測図



第5図 H1号住居址カマド実測図

- 27層 濃い黄褐色土 (10784/3) 焼土ブロック少量。  
 28層 暗褐色土 (10902/3) ロームブロック多く含む。2はたくしる。  
 29層 暗褐色土 (10783/4) しまりあり。  
 30層 暗褐色土 (10782/3) ロームのブロック少量。かたくしる。  
 31層 暗褐色土 (10783/3) ロームブロック多く含む。  
 32層 濃い黄褐色土 (10784/3) ロームを含む。

道管で、カマド付近と西壁の一部を攪乱により壊され、1・3層の覆土は自然堆積である。規模は北壁4.2m、南壁4.4m、東壁4.2m、西壁4.2mを測り隅丸方形を呈する。壁残高最深32cmを測り、南北の軸方位は $N-30^{\circ}-W$ を示す。

ピットは10個検出された。住居址中央のやや北寄りにP1～P3が、南壁直下にはP5～P7が南北壁と平行の位置から検出され、支柱穴と思われる。P1には径18cmの柱痕が認められた。P11・P12は床下から検出された。

床は平坦で中央付近とカマド近辺は固く締まる。深さ4～6cmの周溝が、東壁から西壁壁下を巡る。

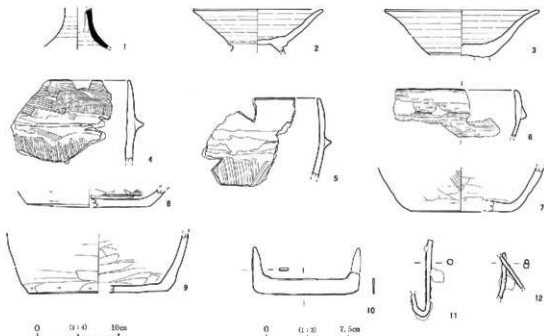
カマドは南東コーナーに設置されていた。旧カマド煙道部のみが新カマド煙道部の30cm北側に確認された。両袖の芯に礫を用い、礫の下部と外側を暗褐色土で礫の上部と内側を黒色粘土で被覆し構築されていた。左袖の礫は鉄平石、右袖の礫は砂岩であった。煙道部の底面は黒色粘土で構築され、煙道側壁は手前側が焼け込んでいて固い。新煙道部は火床から緩やかに直線的に立ちあがるが、旧煙道部は中程に平坦な面がある。旧煙道部はよく焼け込んでいて、崩れた側壁等の多量の焼土が見られた。

南西および北西コーナーのP8とP4にマウンドが付随する。P8には北縁と南縁に堅く締まった暗褐色土の高さ6cmのマウンドが、P4の北縁には高さ5cmほどロームブロックを多く含んだ堅く締まる暗褐色土のマウンドが見られた。P8は長径100cmほど短径90cm、深さ床面から10cm・マウンド上面から16cmを測る。P4は長径100cm短径90cm、深さ36cm・マウンド上面から40cm前後を測る。

遺物は須恵器、土師器、鉄器が出土した。1～4・7・8がカマド、6がカマド付近、9がP4とカマド付近、5がI・III・IV区から、10～12がP6から出土した。1の須恵器は高坏の脚部であろう。内面上部縦にヘラナデされる。2・3は土師器碗で内外面ロクロナデ、器厚は共に厚く特に3は二重重ねのように分厚く成形されている。4～6は土師器非ロクロ成形の羽釜で鏝は全周するものと思われる。外面ハケメ調整される4・5とヘラナデ後一部粗い

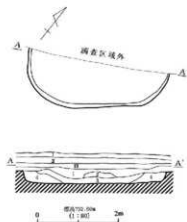
ヘラミガキされる6がある。4～6は土師器非ロクロ成形の羽釜胴下部から底部である。P6から3点の鉄製品が出土した。10は筭引金具、11・12は細く円形の断面をした鉄製品で用途不明。

本址は、土師器羽釜・碗の特徴から11世紀前半の所産と思われる。



第6図 H1号住居址出土遺物実測図

2. H2号住居址 本址は、そ・た-5Grに位置し大半の部分は調査区域外にある。規模は南壁3.0m、東壁検出部0.6m、西壁検出部1.0mを測り隅丸方形ないしは長方形であろう。壁残高は最深32cmを測り南北軸方位N-35°-Wを示す。4層の覆土は自然堆積とみられる。調査範囲ではカマドや炉はみられない。平坦な床面は敲き締められていない。出土遺物は縄文時代中期後半の深鉢1片だけである。



第7図 H2号住居址実測図および出土遺物実測図



1層 神原色土 (10983/2)

小石・パミス1cm大、  
黄色ローム粒少量含む。

2層 灰黒褐色土 (10984/2)

パミス・黄色ローム粒子含む。

3層 黒褐色土 (10982/2)

小石・パミス含む。

4層 灰黒褐色土 (10984/2)

パミス・黄色ローム粒少量含む。

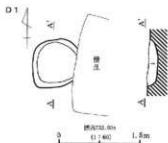


0 1 2 m  
断面 5782-094  
(1:40)

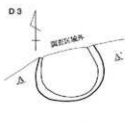
1層 神原色土 (10983/2)  
パミス少量含む。

第8図 M1号溝状遺構実測図

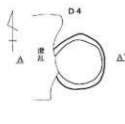
3. 溝状遺構 M1号溝状遺構は、さ4・5Grから検出された。深さ4～7cmで北に延びると思われる。



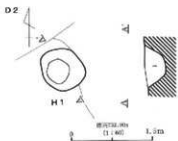
D1 1層 赤褐色土 (10YR3/2)  
黄褐色ローム・パミス少量含む。



D3 1層 紅褐色土 (10YR3/3)  
小石・パミス少量含む。



D4 1層 赤褐色土 (10YR3/1)  
に高い黄褐色土・白色ローム粒子・パミス少量含む。



D2 1層 赤褐色土 (10YR3/1)  
パミス・黄褐色ロームブロック少量含む。

D3 2層 灰白色土 (10YR8/2)  
黄褐色ローム粒子・パミス少量含む。



D4 2層 赤褐色土 (10YR3/2)  
パミス少量含む。

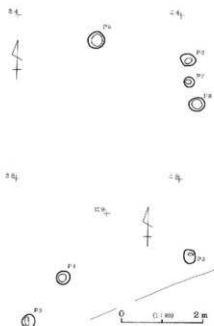
第9図 土坑実測図・トレンチ3出土遺物実測図

つ形態の住居址は、調査区北側で長野県埋蔵文化財センターが現在調査中の北近津遺跡群「中部横断自動車道」建設予定地でも5軒散在的に発見され、M2号溝状遺構は、直線的に湧玉川まで続いていることが確認されている。佐久市教委で調査した北近津遺跡IIや「中部横断自動車道」建設予定地で長野県埋蔵文化財センターが検出した弥生時代末～古墳時代前期・古墳時代中期～後期の住居址は、下宮原遺跡I・IIでは確認されていない。周防畑遺跡群内でのトレンチからは、遺物・遺構とも発見されなかった。

トレンチ4のM2号溝状遺構は幅3mで北に延びる。

4. 土坑 土坑は4基検出された。出土遺物もなく、機能等言及できない。

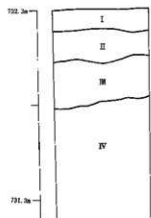
5. まとめ 今回検出された平安時代の南東コーナーにカマドを持つ



第10図 ピット群実測図

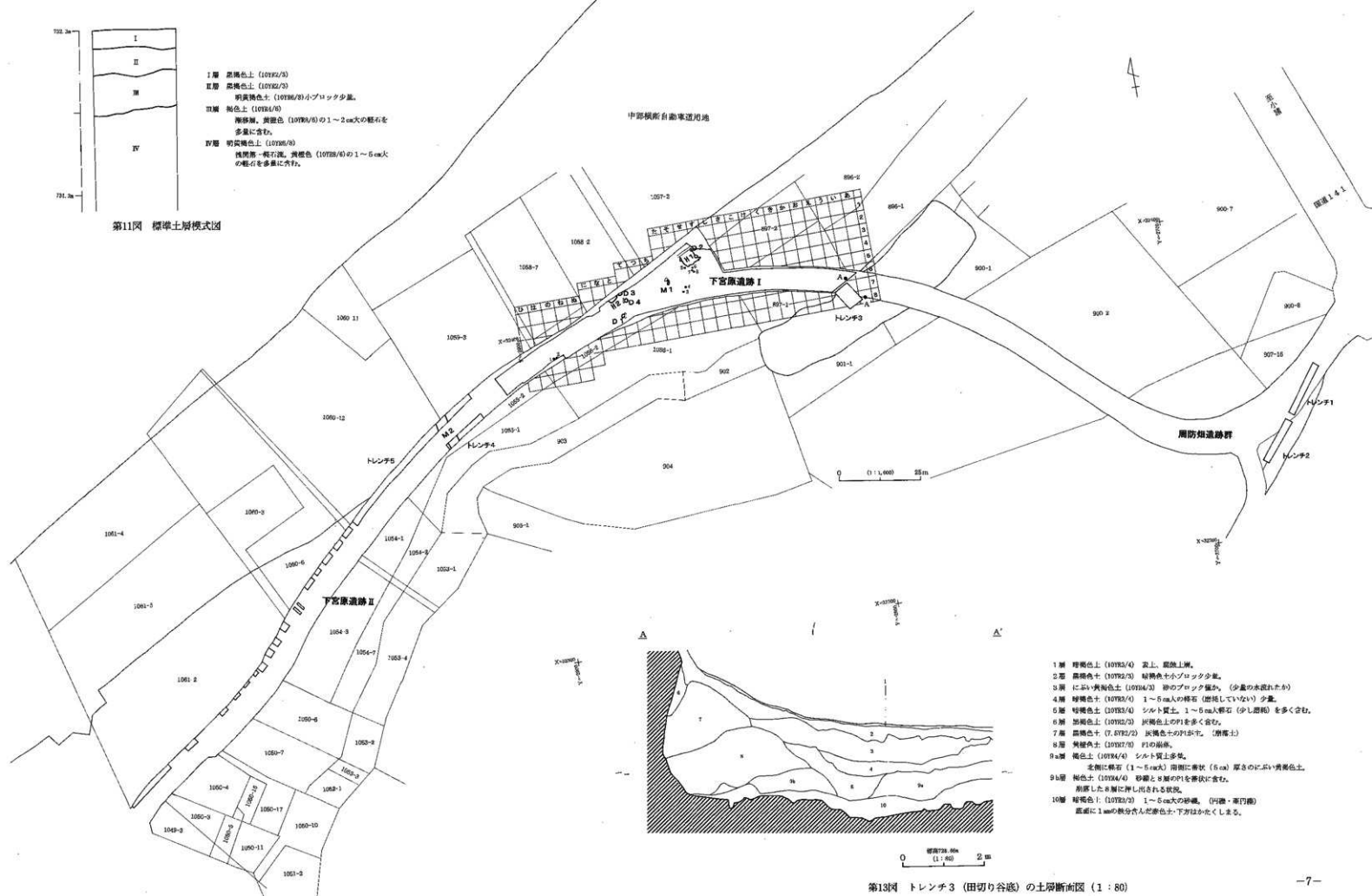
側面田切り谷底の土層堆積状況をトレンチ3で観察した。表土下2.2mの層厚がある。最下層は砂と1～5cmの円礫と並円礫層で下層部は強く締まり、底面は大小の浸食による凹みが見られた。田切谷底一面に水流があったと思われる。この層から第9図の底部へラナデされる須恵器環(奈良時代)と2片の須恵器環・5片の土師器が出土した。8点ともよく摩耗している。この上の第9層は最深60cmほどのシルト質土を主とし、水の流れは緩やかであったとみえる。その後高さ3mのP1(第7～9層)が崩落した。第9層を切って少し摩耗した軽石を多量に含むシルト質の第5層が、幅2m深さ1.5m堆積している。第3・4層には少量の水流が窺える砂のブロックが僅かに見られる。このような状況は、いずれも自然流水の浸食堆積と考えられる。



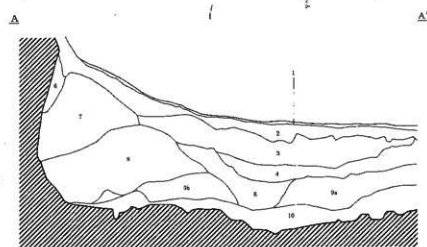


- I層 赤褐色土 (10192/3)  
 II層 赤褐色土 (10192/3)  
 III層 赤褐色土 (10192/3) 小ブロック少量。  
 砂質層。黄褐色 (10193/4) の 1~2cm 程度の軽石を  
 多量に含む。  
 IV層 明灰褐色土 (10193/4)  
 枕形砂-軽石層。黄褐色 (10193/4) の 1~5cm 大  
 の軽石を多量に含む。

第11図 標準土層模式図



第12図 下宮原遺跡 I・II と周防畑遺跡群調査全体図 (1:1000)



- 1層 暗褐色土 (10192/4) 表土、掘削土層。  
 2層 赤褐色土 (10192/3) 軽褐色土小ブロック少量。  
 3層 赤褐色土 (10193/4) 砂のブロック層。(少量の水痕跡あり)  
 4層 暗褐色土 (10193/4) 1~5cm 程度の軽石 (掘削していない) 少量。  
 5層 暗褐色土 (10193/4) シルト質土。 1~5cm 程度の軽石 (少し混雑) を多く含む。  
 6層 暗褐色土 (10192/3) 赤褐色土の層を多く含む。  
 7層 暗褐色土 (10192/3) 赤褐色土の層を多く含む。(埋土)  
 8層 埋土層 (10192/3) の層。  
 9層 埋土層 (10193/4) シルト質土多量。  
 10層 埋土層 (10193/4) 砂質土。  
 11層 埋土層 (10193/4) 砂質土。  
 12層 埋土層 (10193/4) 砂質土。  
 13層 埋土層 (10193/4) 砂質土。  
 14層 埋土層 (10193/4) 砂質土。  
 15層 埋土層 (10193/4) 砂質土。  
 16層 埋土層 (10193/4) 砂質土。  
 17層 埋土層 (10193/4) 砂質土。  
 18層 埋土層 (10193/4) 砂質土。  
 19層 埋土層 (10193/4) 砂質土。  
 20層 埋土層 (10193/4) 砂質土。

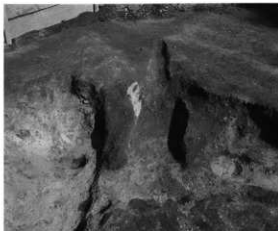
第13図 トレンチ3 (田切り谷底) の土層断面図 (1:80)



H1号住居址全景（北西から）



H1号住居址ホリ方全景（北西から）



H1号住居址カマド（北西から）



H1号住居址カマド抽部の燻芯（北西から）



H1号住居址カマドホリ方・旧カマド煙送部（北西から）



H1号住居址鉄製品出土状態（東から）



H2号住居址全景（南東から）



市道南側拡幅部分精査状況（北東から）



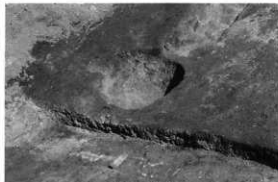
現市道下精査状況（H2号住居付流、北東から）



現市道下精査状況（南西から）



D 1号土坑 (北から)



D 2号土坑 (北西から)



D 3号土坑 (南から)



D 4号土坑 (西から)



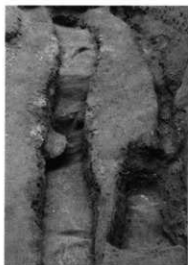
下宮原遺跡南側の田切り (谷底との比高5 m、南西から)



田切り谷底土層堆積状況 (南西から)



田切り谷底土層堆積状況 (南西から)



田切り谷底底面の状況 (南東から)



田切り谷底底面の状況 (南から)



6-2



6-3



6-9



6-4



6-1



6-10  
(1:3)



6-11・12  
(1:3)

出土遺物

第1表 H1号住居址出土遺物観察表

No.	種別	種類	寸法			内径	直径	文様	備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	高さ(厚)					
1	須恵系	瓦葺	—	—	(8.0)	コクロナデ	—	外	完全文鳥	カマド付近、カマド
2	土師系	灰	(15.9)	—	(8.3)	コクロナデ	—	外	完全文鳥	カマド
3	土師系	灰	(19.0)	—	(8.6)	コクロナデ	—	外	完全文鳥	1区、カマド
4	土師系	羽織	—	—	—	コクロナデ	—	外	完全文鳥	カマド
5	土師系	羽織	—	—	—	コクロナデ	—	外	完全文鳥	カマド
6	土師系	羽織	—	—	—	コクロナデ	—	外	完全文鳥	カマド
7	土師系	羽織	(12.6)	—	(5.4)	ヘラナデ	—	外	完全文鳥	カマド付近
8	土師系	羽織	(15.1)	—	(2.3)	バクナデ	—	外	完全文鳥	カマド
9	土師系	羽織	(17.0)	—	(7.5)	ヘラナデ	—	外	完全文鳥	カマド
加	器種	茶缸	残存率	最大径	最大径	最大径	直径	—	—	出土位置
10	埴輪	埴輪	—	4.5	10.0	0.2	17.80	—	—	P6
11	不明	埴輪	—	(7.1)	1.8	0.5	6.84	—	—	P6
12	不明	埴輪	—	(4.3)	2.3	0.8	4.65	—	—	P6

第2表 土坑計測表

遺構名	検出位置	平面形	規模(m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
D1	セ-1-7	円形	94	88	18	未割覆瓦
D2	セ-2	円形	88	74	45	H1を跨る
D3	セ-5	円形	130	(94)	32	北側築造区域外
D4	セ-5	円形	100	(94)	20	西築瓦

第3表 ビット計測表

遺構名	検出位置	平面形	規模(m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
P1	セ-9	円形	40	40	18	覆土 茶褐色土
P2	セ-9	円形	40	30	25	覆土 黒褐色土
P3	セ-5	円形	34	34	19	覆土 黒褐色土
P4	セ-5	楕円形	36	30	15	覆土 黒褐色土
P5	セ-4	円形	40	40	13	覆土 黒褐色土
P6	セ-4	楕円形	30	20	12	覆土 黒褐色土
P7	セ-4	円形	26	26	10	覆土 赤褐色土
P8	セ-4	円形	38	34	9	覆土 黒褐色土

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第163集

近津遺跡群 下宮原遺跡 I・II

周防畑遺跡群

2009年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市巾3込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所

## 報告書抄録

書名	近津遺跡群下宮原遺跡Ⅰ・Ⅱ周防畑遺跡群		
ふりがな	ちかつ	しもみやほら	すぼうばた
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書		
シリーズ番号	第163集		
編著者名	林 幸彦・佐々木宗昭		
編集・発行機関	佐久市教育委員会		
発行年月日	2009.3.27		
郵便番号	385-0006		
電話番号	0267-68-7321		
住所	長野県佐久市志賀5953		
遺跡名	近津遺跡群下宮原遺跡Ⅰ・Ⅱ (NTSⅠ・NTSⅡ)	周防畑遺跡群	
遺跡所在地	佐久市長上1056-2他	佐久市長上島900-2他	
遺跡番号	6	7	
経度	138°-28'-06." (世界測地系)		
緯度	36°-17'-31" (世界測地系)		
調査期間	2007.8.17~2007.9.11	2008.5.13 (現場)	
	2007.9.21~2008.3.19	2008.6.23~2009.3.27 (整理)	
調査面積	1060㎡		
調査原因	地方特定道路整備事業市道S1-210号線 (近津東線) 築造工事		
種別	集落址		
主な時代	縄文時代・平安時代		
遺跡概要	遺構 竪穴住居址2軒 (平安1・縄文1) 土坑4基 溝状遺構2条他 遺物 縄文土器・須恵器・土師器・鉄製品		
特記事項	近津遺跡群範囲の東限が確認できた。		